第96回

日中経済交流研究会新聞

# 2020年『訪日団』レポート

# 「外国人の視点から日本企業を観る」大阪の企業を訪れてみた

## (2020年11月2日～3日)

**毎年開催しております当会の主たる行事である「訪中団」ですが、今年は開催することができず代替え行事として「訪日団」を行いました。これは、日本を訪れている外国人目線で、中国やチャイナプラスワンに所縁のある企業の訪問をしたり、経営者からの報告を聞いたりする一泊二日の大阪旅行です。感染症対策に配慮し、同友会会員外も含めて総勢30名でのツアーとなりました。**

### 企業訪問その1：株式会社津川製作所

ご案内いただいたのは、津川礼至さん。モーターとその関連部品を開発製造している開発型のメーカーで、ベトナム人２名、中国人２名、日本人２名の技術者集団が会社を牽引しています。TV番組「ガイアの夜明け」に取り上げられたこともあり、モーターの技術を多方面に展開しています。中国とベトナムにも拠点を置き、特にベトナムは社業にとても貢献しているそうです。

中国進出はうまくいったとは言えないものの、中国のすごさと将来性を認識しており「売り先」として中国進出回帰が進むだろうとの見解でした。

過去の失敗に謙虚に学び、その学び（分析）を次のステップへつなげている姿勢に技術者らしい賢明さを感じました。

### 企業訪問その2：株式会社三栄金属製作所

ご案内いただいたのは、文敬作さん。シンクなどに使われるステンレス部品を、プレス板金加工とインサート成形加工で製造しています。今では多くの会社が採用しているベトナム人雇用を2007年から始めた先見の明がある会社であり、現在でも96名中34名の方がベトナム人です。廃業することになった会社などを譲り受け、規模（商い・雇用）を拡大しています。このコロナ禍でも業績は前年よりプラスで推移しており、苦労されたベトナム進出も黒字化しています。その秘訣は、非常に謙虚な姿勢と積極的な行動により、自然と周囲から商いと買収案件が舞い込むことにあります。

文さんは「同友会に入会し社員に対する説明責任を果たすことを学んで楽になった」と言います。還暦をとうに過ぎてもなお、夢を語る姿に感銘を受けました。

### 報告その1：摂陽観光

ご報告いただいたのは、藤原雅彦さん。旅行代理店である摂陽観光さん、この状況下において状況は察するに易いと思われます。３月半ばから業績は急降下し４～６月は売上ゼロ、社員は自宅待機、止められる出費はすべて止めたとのことです。このような切実な状況を報告いただきました。

７月20日からGo To トラベルが開始。メディアが注目しTV番組にも多数出演され、昨今露出の多い状況だそうです。「この先、しばらくは以前のような団体旅行は戻らないだろう」と言う藤原さん、二転三転するGo Toのルール変更に辟易しつつも、アフターコロナに備えて「ヘルパー同行型個人旅行」を企画しています。ちなみに藤原さんは、同友会歴35年の大ベテランの会員さんです。

### 報告その2：株式会社王宮（道頓堀ホテル）

翌朝、最後にご報告いただいたのは、同社専務の橋本明元さん。このコロナ禍による苦境をおりまぜて、培われた経営基盤について聞きました。

グループには、橋本さん自身の「使命」に立脚したグループの「理念、ビジョン、使命」があります。この二つが強固に結びついているので橋本さんの言動に矛盾はありません。業績向上は、①社風②固定観念を覆す戦略、この二つが両輪と橋本さんは言います。

この両輪を回す原動力が、正に「理念、ビジョン、使命」です。故に、これらの浸透に誰しもが容易にできないあらゆる手段を講じて、取り組んでいます。

「思い」だけではなく、それを実際の行動に落とし込む姿に非常に感銘をうけました。報告中に「使命」「使命」と何度聞いたことでしょう。使命感に駆られる熱い語り口に衝撃が走った報告でした。

（取材・文：日中経済交流研究会　広報委員　野村　明宏）